

平成 27 年度第 3 回定例会

日 時： 平成 28 年 1 月 29 日（金）午後 1 時 30 分から

場 所： 図書館本館 講座室

出席者： （図書館協議会委員）会長、副会長、委員 4 名、

欠席： 委員 1 名

（事務局）図書館長、企画運営係長、サービス係長

子ども読書支援係長、地域資料係長、総務係長

担当職員 2 名

会長： 本日は委員 1 名より欠席の連絡が入っている。委員 6 名が出席しているため、多摩市図書館協議会規則第 4 条により平成 27 年度多摩市図書館協議会第 3 回定例会を開催する。事務局より配布資料の確認をお願いする。

（事務局配布資料の確認）

本日の議題に入る。議題 1「新たな本館の再構築について」事務局より説明をお願いする。

事務局： 議題 1「新たな本館の再構築について」資料 3-1-1 に添って説明する。

現在の多摩市立図書館本館は中学校の校舎を改修し、平成 20 年から 10 年程度の暫定活用ということで現在運用している。平成 28 年になり再構築の検討が必要な時期にきている。

平成 25 年 8 月 7 日付けでいただいた意見書「多摩市立図書館の施設とサービスのあり方について」（資料 3-1-2）では、本館の再構築の場所について、平成 22 年 4 月の図書館協議会の答申（資料 3-1-3）を踏まえて、多摩センター駅周辺が望ましいとの見解をいただいている。

図書館長としては、新たな本館の用地確保について次のように考えている。新たな本館の場所は、平成 22 年 4 月の図書館協議会の答申や平成 25 年 8 月 7 日付けの図書館協議会意見書を踏まえ、多摩センター地区としたいがいかがかというもの。本日このような形で投げかけさせていただくので、次回 2 月下旬を予定している図書館協議会の場で回答をいただきたいと考えている。

資料をご覧いただきたい。資料 3-1-2「多摩市立図書館の施設とサービスのあり方について」は平成 25 年 8 月 7 日付けで行動プログラムに対する意見としていただいたもの。この中で新たな本館の場所は、2 頁目にあるように「整備する場所については、平成 22 年 4 月の図書館協議会の答申を踏まえ、多摩センター駅周辺が望ましい」という意見をいただいている。ただ、多摩センター駅周辺でない場合は「図書館協議会に改めて諮問することを求める」ということでもあったので、この場で改めてお聞きしたいと考えている。

次に資料 3-1-3「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方につ

いて」をご覧いただきたい。4 頁目に「3 中央図書館はどこに」とあり、要約すると聖蹟桜ヶ丘駅、永山駅近くには駅前拠点館があり、唐木田駅至近には当時地域館を建設中で、中央図書館は多摩センター駅のすぐ近くが最も望ましいと述べられている。しかし、財政や土地確保の事情などから多摩センター駅のすぐ近くが難しい場合は、現在の本館の跡地を活用することも考えられると述べられている。これらを踏まえ、今後の用地の確保は多摩センター周辺地区を視野に入れて確保できればと考えているので、ご意見をいただきたい。

会長： 事務局より新たな本館の場所については多摩センター地区と書かれているが、具体的にはどこを指すのか。

事務局： 現在視野に入れている場所は、ひとつは行動プログラムの中で候補として挙げられている鶴牧倉庫。多摩中央警察の斜向かいになる。二つ目は昨年末に学校法人から申し出のあった桜美林アカデミーヒルズの一部。三つ目は先ほどの答申にもあった現在の本館。荷重の関係で今の建物のままでは難しいが、建替えることも考えられる。多摩センター地区とは、現在の本館よりも多摩センター駅寄りを考えている。

会長： 具体的にどこからどこまでを多摩センター地区とするという決まったものはあるのか。

事務局： 特にない。

委員： 多摩センター周辺のことだが、実現の可能性はどの程度あるのか。ある程度決まっているのか。それともかなり先の話なのか。それによって考え方が違ってくる。

会長： 実現性についてと規模についてもわかっていることはあるのか。

事務局： 実現の可能性については、この場で何年以内とは申し上げにくいですが、20 年先を視野に入れた意見では遠すぎるので、例えば 5 年程度先までに用地が確保できればということで考えていただければと思う。

規模については平成 25 年 8 月にいただいた意見の中で 1 万㎡と記載されている。これはかつて図書館協議会からの答申にあった大規模な施設だが、この時は地域館がなくなる前提での話かと思う。今は地域館については一定の蔵書も必要ということで検討中である。そうでなくても 1 万㎡は大きすぎるのではないかと考えている。参考に図書館年鑑で 2005 年から 2014 年までの新たな図書館の事例を調べてみた。300 件余りのうち本館及び中央館、自治体種別が市・区のものでは 87 館の事例があり、平均は 3,352 ㎡。さらに人口規模を 10 万～19 万人で絞り込むと 10 館あり、平均が 4,875 ㎡であったため、自分としては 5,000 ㎡前後で考えたい。

会長： 今、事務局から可能性については 5 年程度が目安ではないかということと、規模に関しては 5,000 ㎡程度という話があった。これに関して何か意見はあるか。

副会長： 広さについては自分も調べた。人口ではなく中央館としての機能から考える

と、だいたい5,000㎡以上、できれば6,000㎡程度は欲しい。ただ単に図書館だけではなく良い意味で複合的な使い方をすることを考えると、人口が少なくても6,000㎡程度は必要。図書館機能を満足させながら様々なことをしていくには6,000㎡以上は欲しいです。

会長： この平成22年の答申は7館体制を前提としたもので、平成25年の意見は地域館が廃止されるという前提のもの。状況はかなり流動的ではあるが、これまでの協議会の議論ではどちらにしても中央館は多摩センター周辺としていた。

副会長： 候補は3つとのことだが、現在の本館だと駅からだいぶ離れている。パルテノンと連携することも考えると理想的なのは桜美林ではないか。

委員： 現在、桜美林との折衝はどこまでおこなわれているのか。可能性がどうなのかわからない。

事務局： この場でどこが適当かという議論をしていただいても、平成22年の答申にもあるが、財政的な状況などいろいろあるため、桜美林アカデミーを確保する目途があるのかというところについては申し上げられない。その辺の交渉については行政にお任せいただきたい。

委員： では、現在の本館を建替える可能性はどうなのか。以前には、また学校に戻る可能性があると聞いていた。

事務局： 以前は、多摩センター地区に住宅が沢山建設され小中学校が足りなくなるのではないと言われていたが、今は住宅の計画を踏まえると1校を建てるまでの必要はないとの見解を担当部署から聞いている。

現在の本館を中央図書館にすることについては、この建物を耐震補強し書庫に沢山本を入れられるようにしたとしても基礎の杭が学校仕様のためもたない。建替えるとしたら校庭に仮設で本館を建てて、その間にこちらを建設することも考えられる。

会長： 平成25年8月の図書館協議会の意見は、地域館廃止の前提として中央館を整備してほしいとまとめたもの。今回の中央館の整備は地域館の廃止とリンクしているのか。あるいは、もともと中央館の整備は要望としても出ていたので、地域館廃止とは独立したものなのか。

事務局： 新たな本館が必要というのは、この建物が暫定活用ということで限られた改修しか行っていないため、今後恒常的に使うには問題があるので再構築というところである。地域館をどうするかとは関係なく、新たな本館が必要ということがある。ただ規模については、平成25年8月には地域館が廃止になるのであればとした上でのご意見だったので、まったく関連がないということはないと思うが、教育委員会としても地域館の蔵書がなくなる想定での規模(1万㎡)は難しいのではないかという議論をしている。新たな本館が必要というのと地域館がなくなることは完全にリンクしていないわけではないが、必要性は単独であると考えている。

また平成 22 年の答申にもあるが、本館がきちんとしていないと地域館の運営も難しいということがある。例えば図書の選書や、書庫の図書を本館に集めることで地域館の本を新鮮にするなど様々な機能がある。また都立図書館などの窓口になるのも本館である。学校図書館の支援や団体貸出の機能も本館がおこなっているため、本館が立ち行かないと地域館の運営も難しくなる。7 館については来年度以降も行動プログラムで検討されるが、本館ができれば地域館がなくなるということではない。

副会長： 本日の議題は「新たな本館の再構築」ということであつたため、場所だけではなく、もう少し幅を広げて考えたいと思った。これからの多摩市の図書館の本館としてのソフトを考え、それに基づいて施設整備を考えたいと思い、資料「多摩市の“未来ある図書館像”」*1としてまとめてきたものがある。今日これを発言して、次回また煮詰めていきたいと思っている。

会長： 今日の議題の目標は、情報を共有し現時点の意見を言ってもらい、次回の定例会において具体的に多摩センター地区にすることを決めるということ。副会長にまとめていただいたものも皆で合意するというのではなく、自由に発言いただきたい。中央図書館を整備するとなった場合にどのような機能を持たせるか、その機能を具体的にどう実現していくかは基本計画等で決めていくと思うが、その時は図書館協議会にも情報提供いただけるという理解でよいか。

事務局： はい。新たな本館の構想や計画については、また改めて検討していただく。

会長： 今回は場所についてということで、今日は決めなくてもよいということなので、次回また話し合いたいと思う。ここまではよいか。では副会長がまとめた資料について発言をお願いします。

副会長： 先のことまで考えてまとめてきた。話が急に進んでいるような感じを受けて、建物のことだけが先行し、中味のことをあまり検討する時間がなく進みそうなので、自分なりに考えてきた。

今までもいろいろな意見や提案をしていると思うが、それらに基づき多摩市の図書館本館が抱えている問題や課題を探り、原因を考えてみた。施設整備をする時にはまずソフトを考えて、それに基づいてハード、施設整備をおこなうのが一番よい。まず多摩市の図書館本館の現状を知り、問題・課題を探り、それらを解決するためにどの方向を目指せばよいかということで、目指す図書館像も書いてある。それに基づき本館の再構築に向けてのソフト面での提案をしている。さらにそれを活かすための施設整備の考え方として4つ挙げている。静かな環境、話し合いができる環境、催し・集いができる環境、少子高齢化対策として支援センターを併設し気軽に相談できる環境があるとよい。施設の構成としては6つ、調査・研究支援機能、課題解決支援機能、交流・学習支援機能、収集・保存機能、最近の家読（うちどく）と言われている家庭読書機能・10代の読書支援機能、併設として介護・子育て支援機能。規模は蔵書が50万冊、開架が20～25万冊、

延床面積が6,000㎡以上とした。参考の最後にある武蔵野市は多摩市と同じくらいの人口。3館体制でわりと大きな図書館を揃えている。武蔵野プレイスを見てきたが来館者がとても多く、1階の真ん中にレストランがあり、図書館としてはどうかと思う部分もあるが、まちの再生を考えると複合的な機能を盛込むことは大切。伊万里市は人口5万6千人だが、延床面積は4,374㎡と大きい図書館を建てている。立川が17万9千人で5,000㎡。図書館の機能のある程度盛込むと6,000㎡以上は必要で、小さくはせっかく造るのもったいない。

会長： 我々も新しい中央館のイメージを共有したいと思うが、何か質問や意見はあるか。この資料を見て経営や運営に関しての内容が多いと感じた。例えば4（4）から（8）は経営的な側面で、図書館というとサービスに関心がいきがちだが、どのような運営体制にするかはサービスに深く関わってくるので、基本的にこのような方向性には共感できることが多い。

副会長： やはり図書館は人で動くと思う。人が働きやすい職場環境を考えていただくと、職員のモチベーションが上がり能力を発揮できる。それがサービス向上につながるし、前向きに色々なことに取り組むことができるのではないか。再構築の時には建物のことだけではなく、現在の業務についても見直し、無駄は省き、こうしたらよいということは積極的におこなう。それが新しい図書館ができた時に運営がうまくいく要素なのではないか。図書館が変われば今まで利用していなかった人たちも利用するようになるのではないかと思う。

委員： 現在の課題・問題点ということでは全般的には正しい指摘だと思う。例えば人件費の73.9%をなんとかしたいとも思う。ただひとつ（6）の人材育成について。図書館員は特殊なため専門的なトレーニングや研修に力を入れてもいいのではないか。市の職員としての研修は一般的にしていると思うので。また管理職は異動があるとのことなので、図書館職員はプロパーであって良いと思う。

副会長： 図書館の専門的な研修は今まで以上にしていきたいのだが、それだけでなく、例えば地域の課題に対応するために行政の仕事はどうなっているのかというのは図書館の専門的なこととは少し違うのではないか。時々図書館の外に出て、行政がどのような動きをしているか、どのように変わってきているのかを意識することは大切。例えば企画展示をする時に行政がおこなっている子育てのことや学校のESDがどのようにみなさんに関わりがあるのかということは、図書館の仕事だけをしてはわからない。そのような目を養うために異動ということを考えて。図書館が新しいことを発見し力を発揮していくためには、他の職場で違った見方をすることが必要ではないか。少しでも経験すると視野が広がると思うし、その人にとってもプラスになると思う。

委員： ウェイトの置き方だと思うが。

副会長： ウェイトは当然図書館の仕事。

会長： 2（6）を見ると、図書館職員としての研修をやめて市職員としてのスキルア

ップを図るともとれるがそうではないということか。

副会長： 図書館職員としての研修は今以上におこなっていただきたい。情報処理も進み電子書籍などもあり、新しいこともやらなくてはいけない。ただ長年図書館だけにいると同じ視点になってしまうのではないかと。一生懸命前向きになればいいが、長年同じところにいると前例踏襲が楽なのでどうしてもそうなる。異動はある意味刺激になるので、仕事ではなく取り組み方を覚えてもらうとよい。

会長： 庁内で働くことは、図書館に戻った時にさまざまな形で図書館のサービスの幅を広げることがある。そのような市の職員としての人材育成を併せてやっていく必要がある。

委員： 少し違うが、地域館の廃止が言われている中で、それぞれが実際維持費にどのくらいの費用がかかっているのか。

会長： それはこの議題と少し離れるので、また別の時にお願したい。

委員： 地域館については今後も検討していく中で、今どれくらいの経費がかかっている、廃止するといくら節約できるのかを知りたい。ある程度はつきりしていないと存続させるかどうか、存続させるのであればどのような形でやるのかの判断ができない。簡単なものでいいので次回教えてほしい。

会長： 配布された次第にはなかったが、この間におこなわれた読書活動振興計画の市民懇談会について館長に状況を伺いたいと思っている。それから図書館協議会委員と市民との懇談会もあったので、その様子などを情報共有したいと思っている。

副会長： 先日の日曜日に豊ヶ丘図書館へ行ったが、本館の職員が応援に来ていた。東寺方は嘱託職員だけの運営のため関戸図書館からの応援があると聞いていたが、豊ヶ丘図書館には応援がないと思っていた。聖ヶ丘図書館も永山図書館から応援に行っていると推測した。地域館に対して本館や拠点館がどの程度応援をしているのか。新たな本館ができた時にもこのままの体制でいくのかを知りたい

会長： こちらの資料「多摩市の“未来ある図書館像”」についての議論は終了してよいか。

副会長： まだ次回もあるということなので。新しいものをつくる時にはこういう考え方が参考になるのではないかと。設計から入るのではなく多摩市の図書館のソフトを考え、それを実現するために施設がどうあるべきかという考え方。現在、松戸市が図書館整備計画を進めており、ソフトに関して随分長い間、1年以上かけて松戸市の中央図書館はどうあるべきかを検討している。場所はだいたい決まっているようだが、まちづくりの核にもなるような考え方でソフトはどうあるべきかがだいたい決まり、ではそれに合う施設はということで、大串先生や常世田先生が審議会委員となって検討している。まだ時間はかかるようだが、会議録を読んでいると整備の考え方が参考になる。

会長： 引き続きこのような資料を共有しながら新しい図書館像を考えていきたい。新

たな本館の場所については次回もまた話し合う機会があるということで、本日の議題については以上。

次に次第にはないが、多摩市読書活動振興計画についての市民懇談会があったと思うので様子を伺いたい。あわせて図書館協議会の非公式の活動ということで、申し入れのあった多摩市社会教育を考える会、聖ヶ丘図書館の存続を考える会と懇談会があったので報告したい。それから前回、ワーキンググループをつくり全域サービスを検討する必要があるのではないかとすることを提案させていただいた。これについて具体案をまとめてきたので見ていただきたい。

まず事務局から読書活動振興計画についての市民懇談会の様子をお願いする。

事務局：

現在、読書活動振興計画のパブリックコメントと市民懇談会をおこなっている。原案をホームページに掲載し、各図書館にも設置している。12月の図書館協議会での意見を反映していない状態で申し訳なかったが、市民に原案を見ていただき意見をいただいているところ。1月15日から2月1日までがパブリックコメントの期間で、その間おこなわれた市民懇談会での意見もパブリックコメントとして扱うということで取りまとめをしている。市民懇談会は1月16日（土曜日）東寺方図書館、23日（土曜日）永山図書館、24日（日曜日）本館と豊ヶ丘図書館の4箇所でおこなってきた。今までの意見としては、読書活動振興計画の意見というより行動プログラムに対する言及や新たな本館と地域館についての質問が多かった。地域館を「拠点館を補完する身近な場所」としているため、市民の方はこれに基づいて地域館が廃止されるのではないかと心配しており、その関連での質問が多かった。また「図書館があるから引っ越してきたのになくなってしまふのか」という意見や「子どものためにも残してほしい」「居場所としても重要なので、なくしてしまうと健康上もよくない」「読書活動振興計画といいつつ名称と中味が違っており、どちらかといえば図書館の運営計画ではないか」という意見もあった。この計画は3月までに策定すると申し上げているが、「公共施設との関連が出てきているところでは拙速ではないか」という意見もいただいている。意見がまとまったらこの場でも報告できると思う。今後の予定としては、明日18時から聖ヶ丘図書館、31日（日曜日）14時から関戸図書館、18時から唐木田図書館ということであと3回おこない、全体をまとめていきたい。パブリックコメントとしては電子的なものの意見を求める場も設けているし各図書館にも箱を設けているので、これらも含めて取りまとめをしたい。

会長：

自分はまだ参加していないが、どなたか参加された方で何かあればお願いします。読書活動振興計画はこれからの図書館と読書に関しての長期の計画であるが、市民の方は地域館の廃止について強い反対を示されている方が多いということ。

副会長：

自分は本館と豊ヶ丘図書館の2ヶ所の市民懇談会に参加したが、40頁のイメージ図が少し変わっていた。一番下に「施設面からの整備は公共施設の見直し方針

と行動プログラムの中で明確化」と書かれており、地域館については先送りという形になっている。しかし振興計画で地域館についてあまり触れていないことが市民には心配のようで、なくなってしまうのではないかと思っている様子。自分も現在の地域館が点線で、実線の拠点館を補完するという形になっているため、地域館はなくなるのではないかというイメージを持つ。先送りするはずなのに図ではなくなる話が進んでいるような印象。地域館のことを除いて振興計画を進めることはできないのではないか。以前あったサービスポイントも消えてしまったことで、全域サービスが低下するのではないかと皆さん心配して強く発言されていた。

会長： 今後の読書活動振興計画はどういった形でオーソライズされていくのか。

事務局： 予定としては、来月中旬の庁内策定委員会でパブリックコメントや市民懇談会でいただいた意見を提示し、間に合えば事務局がそれを反映させた計画案を示して諮ることができればと思っている。策定委員会は案を策定するまでが職掌なので、案ができた段階では教育委員会で話し合わせ決定する。当初の予定では3月末までに教育委員会で決定できればというところだが、それでは難しいのではないかという意見もいただいているので現在検討しているところ。

会長： 今年度中にはできないかもしれないということか。

事務局： 予定では今年度中と決めてはいたが。

会長： 市民の方が反対されているということもあるので、充分意見を盛り込むことも大切。次回また進捗についてお知らせいただきたい。

次に市民との懇談会について報告させていただく。この会は、図書館協議会長宛に多摩市の社会教育を考える会と聖ヶ丘図書館の存続を考える会から懇談会の機会を設けてほしいという要望があり、公式な図書館協議会としてのものではなく、自由に話ができればと思ったので非公式な形で開催させていただき、図書館長にも出席いただいた。協議会からは副会長、委員2名、私が参加した。市民の方は、私のメモでは13名が参加。それぞれ廃止が予定されている地域館を残してほしいということで活動されている方々を中心となり意見交換をした。会の流れとしては、最初に自己紹介をして、それぞれの方から3～5分程度で「どうして図書館が必要なのか」ということを中心に、これまでの図書館との関わりも含めて話していただき、あとは自由に議論をした。全体の要望としては、協議会に地域館の廃止について反対を表明してほしいということであった。協議会としてもそのまま「反対」とはならないが、十分に受け止めて考えていく必要があると思った。市民の方の要望を主に受け止めた会であった。当日出席された方から補足や感想があればお願いしたい。

委員： 自分たちの身近にあった図書館がなくなってしまうのかもしれないという切実な意見が沢山あった。図書館は利用者あつての図書館であり、特に多摩市は何もないところから市民が一生懸命図書館をつくりたいということのできた図書

館なので、市民の意見を無視することはできない。あまりに短期間に色々なことが進み、地域館を廃止して大きな図書館3館に集約するという方向に進んでしまったので市民の方も戸惑われている。3月までという期限はあるが、もう少し延ばしていただき、協議会としてももっと話し合うべきではないか。

会長： それは振興計画についてということか。

委員： はい。

委員： 皆さんの話を聴いている中で、図書館協議会が方向性として意見を出した時とは状況が変わってきていると感じた。最初の行動計画では市の財政が差し迫っているように受け取った。それでは将来的にということで、ある意味条件付で賛成したのではなかったか。その後、行動計画が行動プログラムになりトーンダウンしてしまい、行動プログラムからは危機感が感じられなかった。もうひとつは市民活動をされている方が豊ヶ丘複合施設の存続を求める陳情を出し、市議会が採択した。このような大きな動きの前に図書館協議会で判断したことなので、再度図書館協議会として話し合う必要があるのではないか。

委員： それぞれの地域によって成り立ちや思いに違いがあると感じた。画一的に判断するのではなく、もう一度地域の人々の意見を汲み取り、個々の地域にどのようなサービスが良いのかを改めて考えなくてはいけないのではないか。

会長： 図書館に対する強い思いが感じられた。状況が変化しているということもあるので、図書館協議会としても再度考えていく必要があるのではないかと感じた。市民との懇談会については以上。

次にワーキンググループの設置について。地域館についての陳情が市議会でも採択されていることもあり、多摩市全体でどのように全域的にサービスをしていくかということを考えていく必要があるのではないか。それぞれの施設で、例えば図書館は小さくして違う施設をその中に入れるなど施設ごとに考えられることもあると思う。しかし、多摩市全体として見た時にサービスの体制が維持できるかを考えていく必要があると思っている。そのことを考えるワーキンググループを設置してはどうかと前回提案し、具体的な案をつくってきた。目的は、多摩市立図書館の今後の全域サービスを構想し、原案として図書館協議会にワーキンググループから提示する。今年度から検討を始めて来年度には原案を提出する。組織としては図書館協議会のもとに設置する。委員7名のうち希望する委員に参加してもらおう。開催頻度は月1回程度と考えている。検討事項としては、予約資料を受取る場所としてサービスポイントという案があったと思うが、そのようなサービスが本当に機能するものなのかということを実際に視察して議論したい。また、以前は学校との併設の案もあったと思う。先日の新聞に志木市の事例が紹介されていたが、学校との併設は本当にうまくいくのかなどのテーマを設定し、視察をしながらサービス提供に意味のあることなのかを考えていけたらと思っている。何か意見や質問はあるか。

-
- 副会長： ワーキンググループのことではないが、学校との併設の可能性については川崎市の柿生小学校での事例がある。入口は別だが学校の建物に普通の図書館が併設されている。具体的な取り決めについてはわからないが、そんなに大きな図書館ではないので職員が目配りもできるのではないか。
- 会長： 実際に見学に行き、どのような問題があるかなどを聞いて考える必要があると思う。
- 副会長： また、小布施町や恵庭市の「まちじゅう図書館」も参考になるのではないか。
- 会長： 船橋市も街の中に図書施設を設けている「まちじゅう図書館」があり、見学に行きたいと思う。
- 副会長： 先ほどの資料「多摩市の“未来ある図書館像”」を可能であれば自分の意見として会議録に載せていただきたい。（一同了承）
- 会長： では本日予定していた議題と報告は以上。これで平成 27 年度多摩市図書館協議会第 3 回定例会を終了する。

*1 副会長の資料

多摩市の“未来ある図書館像”

～新たな本館の再構築をめざして～

2016.1. 29.

平成 27 年 3 月策定の「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の資料「地域特性マップ」によると、高齢化率が 30%を超えた地区（丁目）が 81 地区のうち 24 地区（約 3 割）、その内、40%を超えた地区が 9 地区と高齢化が進んでおり、地域の課題解決のための人づくりが急務となっています。そのため、新たな本館は、まち（地域）の再生（活性化）のための人づくりを担う役割が期待されています。さらに、持続可能な市政の担い手として、“2050 年の大人づくり”をめざしている多摩市にとって、50 年先においても、耐えうる存在意義を持った新たな本館の再構築を考えることも、より厳しくなるとされる行財政の将来に向けての責務であると考えます。そこで、ソフト（運営・経営）とハード（施設整備）の両面にわたる新たな本館の再構築の考え方を下記の通り提案します。

1. 現状からの課題・問題 提起

本館の再構築を考えるに当たって、まず、ソフト面（運営・経営）の現状把握が何よりも大切。そこで、現状を掘り下げてみると、次のような課題・問題が浮き彫りになりました。

(1) 図書館の真の利用実態が把握されていない。

現在の図書館事業の成果指標は、「資料の貸出冊数」ですが、貸出事業は、図書館活動の一部に過ぎず、その他の活動を外しての事業成果とすることは、改める時がきています。

(2) 運営のための目標となる中期・単年度の事業計画が作成されていない。

(3) 目標への進捗状況や運営の実態を知る図書館の自己評価・外部評価が行われていない。

(4) 多摩市の図書館基本方針が、国の取組である住民・行政のための「これからの図書館像」、「図書館法」の改正、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の改正などとかけ離れた図書館像に止まっている。

(5) 人件費 73.9%について

図書館運営費に占める割合の高い人件費とは、別の言い方をすれば、人件費に見合う運営の内容（下記の 2～4 を踏まえた“めざす図書館”への姿）が見出されれば、一方的な評価にはならず、投資的効果のある使われ方との市民の評価も得られるのではないかと。しかし、現状の運営に甘んじている図書館であるならば、人件費の削減に工夫を懲らすべきだと市民の評価に繋がるとともに、持続可能な行財政の構築にとってマイナスとの評価にならざるを得ないと思います。

(6) 人材育成が、図書館職員向けの研修に偏りすぎている。

市職員としての研修が重視されていない。また、市職員としての人材育成に重き

を置いた市長部局への人事異動が定期的に行われていない。

- (7) 地域館への応援態勢があり、配属の本館の事業運営に専念出来ていない職員体制がある。

2. 課題・問題の原因

次のようなことがその原因となっていると考えられます。

- (1) 前例踏襲の姿勢が強く、前向きに課題・問題点を見つけ、改善・向上を図ろうとする姿勢に欠ける。
- (2) 出来るところからという積極性がない仕事への取組姿勢
- (3) 運営と経営の両視点の大切さへの意識改革が進まず、中期・単年度の事業計画の必要性が認識されず、未策定
- (4) 市民サービス向上を軽視するような図書館の自己評価・外部評価の未実施
- (5) 読書環境の進展・変化を認知できていないため、図書館の存在意義を高めようとする国の提言・報告・図書館法・運営上の望ましい基準等を軽視している。
- (6) 人材育成のための研修が図書館職員対象の研修に偏っていると共に、市の職員としてのスキルアップのための市長部局への人事異動が積極的に行われているとは言えず、市民の視点、図書館経営の視点が育まれていないのが現状です。

そのため、司書と事務職が、長所を活かしつつ、一体となって、めざす方向の共有化を図りながら、運営・経営の課題・問題に当たると意識が醸成されていません。

- (7) 地域館の運営に必要な人員が確保できていないため、土・日の本館からの応援態勢が必要となり、本館の事業運営の充実にマイナスになっていると思われます。

3. めざす“未来ある図書館像”とは

持続可能な社会づくりに向け、市民とともに歩もうとしている行政は、読書による自分育ちを、さらに、人々の交わりの中でそれを活かそうとする“市民（力）育ち”のお手伝いの役割を図書館に期待しています。新たな本館の再構築に向けて、図書館は、「知の拠点」からさらに進展した「知を活かす拠点」と言える「市民・地域・行政・議会に役に立つ図書館」をめざすべきであり、未来を見据え、公立図書館としての存在意義を高めていく努力が今求められているのです。

4. “新たな本館の再構築”に向けて、図書館法、運営上の望ましい基準、これからの図書館像等を踏まえ、未来の厳しい行財政においても耐えうる存在意義を持った中央図書館のソフト面（運営・経営）についての提案

- (1) 市民・地域・行政・議会に役立つサービスの提供

図書館職員は、持続可能な多摩市行財政の構築のための人づくりやまちの再生の一翼を担う役割を自覚し、役に立つサービスの提供に前向きに取り組まなければ、

未来において、公立図書館としての存在意義が問われるでしょう。

(2) 幅広い領域のサービスの提供

情報技術・情報通信ネットワークの進化、厳しい行財政、行政の多様化・複雑化など、公立図書館の存在意義が問われる読書環境の進展・変化がおき続けており、従来のサービス領域に止まらず、役に立つ図書館を追求し続ける姿勢に目を向けたサービスの展開に取り組みなければ、厳しい市民の目にさらされるでしょう。

(3) 質の高いサービスの提供

職員の視点から利用者（市民）の視点に改め、「これからの図書館像」の提言にある次の二つの視点にたった質の高い図書館運営・経営をめざさなければ、公立図書館は、厳しい行財政の荒波に翻弄されることになると思います。

①これからの図書館サービスに求められる新たなサービスの視点

②これからの図書館経営に必要な視点

(4) 事業計画の作成

事業目標を持った仕事への取組は、楽しく、モチベーションアップに繋がります。例えば、まず、本館の係ごとの事業目標を持った単年度の事業計画を作り、それを基に、本館の事業計画にまとめていく。更に、多摩市立図書館の事業計画にまとめて上げていく。

(5) 図書館運営事業の「成果指標」の見直し

図書館活動の成果指標として、貸出冊数だけでなく、来館者数も加える。

さらに、図書館の読書活動の成果をみる質的な成果指標をたてるべきです。

例．（質的な成果指標として）市民アンケート（毎年実施）、パブリックコメント応募数、知的書評合戦・講座・朗読会・おはなし会参加者数の増への工夫等も含めた質的な面を重視した（励みとなる）図書館評価

(6) 人材育成の見直し

①市民の視点、経営の視点にたった図書館サービスの提供が考えられるよう、市職員としての事業遂行・事業管理力、企画（立案）力などの養成研修を取り入れる。

②市長部局（予算決算を担当する事業執行課）への定期的な人事異動を行う。

（人事異動は、マイナスと捉えず、自分を育てるためにあるとの考えに立つこと）

(7) 職員体制の充実

新たな本館の再構築に相応しい職員体制はどうあるべきかを検討し、新たな本館の再構築が実りあるものになるよう職員体制を整えると共に、業務分担の見直しをすることも大切です。

(8) 開館日の拡大

市民サービスの向上、役に立つ図書館、まちの再生をめざし、祝日も開館する

5. “新たな本館の再構築”に向けて、ハード（施設整備）の考え方の提案

(1) 存在意義を持った公共施設として、未来においても必要とされる、前記4のソフト面（運営・経営）の提案を踏まえ、多目的な室・オープンスペースも取り入れた四つの環境を考慮した投資的効果を高める多機能・集約型の施設づくりをめざすと共に、「ひと・まち・情報 創造館」として整備した「武蔵野プレイス」の考え方を参考に、教育・文化のニュータウンとしてのまちの再生の核となり得るよう、パルテノン多摩との一体的な施設整備が求められています。

(ちなみに、武蔵野プレイスの26年度来館者数は、1,644,203人、1日平均5,408人)

① 静かな環境

静かに、本を読んだり・調べたりする環境

② 情報端末の活用や話し合いができる環境

資料・情報端末を使って、人々の交流による地域課題解決のための活動や10代の学習・地域活動ができる環境。

そこには、アドバイスやコーディネート役の図書館職員がいる環境

③ 多様な催し・集いが出来る環境

親子での読み聞かせ・お話し会（家庭読書の推進）・企画展示（役に立つ情報発信、市政情報等）・朗読会・講座・講演会・知的書評合戦（読書ばなれ対策）などができる（自由に設定替え可能な）オープンスペースの環境

④（併設）（少子高齢化の対策として）

地域包括支援センター・子育て総合センターの出先（気軽に相談できる）環境

(2) 施設の構成

① 調査・研究支援機能

② 課題解決支援機能

③ 交流・学習支援機能

④ 収集・保存機能

⑤ 家庭読書推進・10代の読書支援機能

⑥（併設）介護・子育て支援（相談）機能

(3) 規模

① 蔵書数 50万冊（現在の本館所蔵数 約35万冊、開架 約11万冊）

開架数 20～25万冊（中央館としての利用価値を高める開架数）

閉架（収蔵可能）数 蔵書数の60%前後

② 延床面積 6,000㎡以上

③ 駐車スペースの確保（利用者のために）

※ 参考

（注）蔵書冊数＝千未満切り捨て

- ①小平市立中央図書館 開館 1985 年、 蔵書冊数 **33. 2 万冊**、延床面積 **4,703 m²**
 (人口 **18. 7 万人**)
 (11 館)
- ②町田市立中央図書館 開館 1990 年、 蔵書冊数 **54 万冊**、 延床面積 **5,968 m²**
 (人口 **42. 6 万人**)
 (7 館)
- ③市川市立中央図書館 (生涯学習センターとの複合施設)
 (人口 **47. 4 万人**) 開館 1994 年、 (100 万冊収容可能、開架 20 万冊)
 蔵書冊数 **76. 6 万冊**、 延床面積 **6,411 m²**
- ④立川市立中央図書館 (女性総合センターと併設)
 (人口 **17. 9 万人**) 開館 1995 年、 蔵書冊数 **46. 5 万冊**、延床面積 **4,951 m²**
 (9 館)
- ⑤伊万里市民図書館 開館 1995 年、 蔵書冊数 **34. 7 万冊**、延床面積 **4,374 m²**
 (人口 **5. 6 万人**)
- ⑥浦安市立中央図書館 開館 1983・(書庫棟) 1989・(ラウンジ) 2006 年、
 (人口 **16. 3 万人**) 蔵書冊数 **81. 5 万冊**、延床面積 **5,296 m²**
- ⑦稲城市立中央図書館 (併設の体験学習館活用)
 (人口 **8. 6 万人**) 開館 2006 年、蔵書冊数 36 万冊 (開架 15 万冊)
 (6 館) 延床面積 (図書館 3,485 m²) 4626 m²
- ⑧府中市立中央図書館 (市民会館との複合施設)
 (人口 **25. 5 万人**) 開館 2007 年、 蔵書冊数 **90. 5 万冊**、 延床面積 **6,076 m²**
 (13 館) 来館者数 (26 年度) 880,408 人 (1 日平均 2,742 人)
- ⑨北区立中央図書館 開館 (移転) 2008 年、
 (人口 **33. 8 万人**) 蔵書冊数 **39. 5 万冊**、延床面積 **6,165 m²**
来館者数 (26 年度) 804,607 人 (1 日平均 2,507 人)
- ⑩武蔵野市立中央図書館 開館 1995 年、蔵書冊数 **59 . 6 万冊**、延床面積 **7,529 m²**
 (人口 **14. 2 万人**) 来館者数 (26 年度) 498,483 人 (1 日平均 1,718 人)
 (3 館)
- ⑪武蔵野市立武蔵野プレイス (図書館、生涯学習・市民活動・青少年活動支援の
 機能を併せ持った「ひと・まち・情報 創造館」)
 開館 2011 年、蔵書冊数 **16. 7 万冊**、延床面積 **9,809 m²**
来館者数 (26 年度) 1,644,203 人 (1 日平均 5,408 人)
- ⑫武蔵野市立吉祥寺図書館 開館 1987 年、蔵書冊数 **9. 3 万冊**、延床面積 **1,655 m²**